

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、試料・情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

研究計画書番号	RP-S2-21
研究課題名	原爆被爆者における放射線の第2原発がんリスク
研究責任者（所属）	馬淵清彦（米国国立がん研究所）
放影研での研究責任者	杉山裕美
試料・情報の利用目的及び利用方法	<p>利用目的： 原爆被爆者における放射線と関連する第1および第2原発がんリスクを調べることである。</p> <p>利用方法： 調査対象者は、日本人原爆被爆者と当時広島と長崎にいなかった120,321人の寿命調査集団のうち、固形がん罹患率サブコホートで構成される。固形がん罹患率コホートは広島と長崎のがん登録が開始された1958年1月1日時点で生存していた111,917人で構成されている。解析では、DS02R1線量推定値が利用できない者と1958年1月1日時点でがんの病歴がある者は除外する。ポアソン回帰を用い、第1がんと第2がんの罹患リスクについて、過剰相対リスクモデルおよび過剰絶対リスクモデルにより1 Gyあたりの過剰相対リスク（ERR）と100,000人年 Gyあたりの過剰絶対リスク（EAR）を推定する。</p>
他の機関への提供の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（提供先機関：米国国立がん研究所、Hirosoft International） <input type="checkbox"/> 無
利用し、又は提供する試料・情報の項目	<p>個人基本情報：被爆都市、性別、生年月、被爆時年齢、追跡開始年月、成人健康調査対象者かどうか、追跡情報：最終確認年月日、追跡時の状態（死亡している場合はその死因コード）</p> <p>被ばく情報：被爆距離、高線量被曝かどうかの指標、加重臓器吸収線量</p> <p>広島と長崎の地域がん登録または腫瘍登録から取得するデータ： 診断年月、診断時年齢、診断情報（部位、形態、性状、側性、発見経緯、発見動機、臨床進行度、治療の種類）</p>

	<p>郵便調査や面接調査から取得したデータ：教育歴、飲酒、喫煙、身長、体重、測定時の年齢、初経年齢、閉経、出産歴</p> <p>解析では、個人を特定できないよう、日付（生年月日、診断日）は年月までとして日は含めず、放射線線量はガンマ線量と中性子線量ともに有効数字 3 桁までとして丸めます。</p>
利用する者の範囲	<p>米国国立がん研究所 馬淵清彦 カフーン・エリザベス ヒロソフトインターナショナル プレストン・デール 放射線影響研究所 ブレナー・アリーナ 坂田 律 歌田真依 スポスト・リチャード 小笹晃太郎 杉山裕美</p>
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	馬淵清彦（米国国立がん研究所）
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	<p>【研究担当者】 氏名：杉山裕美 公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131</p>